

連携室ニュース

平成30年度 災害訓練（地震想定）を実施致しました。



11月10日(土) 9時00分より、加古川中央市民病院にて加古川市で震度6強を観測したと想定した災害訓練が実施されました。当日は加古川市消防本部の協力をいただき、救急車、ドクターカーの実車を使用した患者の搬送からトリアージなど本番さながらに起こりうる災害を念頭に、各自実際の動きを確認しながら訓練を行いました。昨年の反省点を活かし、午前中に2回の訓練を実施しました。初めて訓練に参加する者もあり、1回目の訓練ではスムーズに行かない場面もありました。しかし各担当者で振り返り、2回目の訓練では各エリアが適切な人員配置と役割分担で訓練を行い、ブラッシュアップされたものとなりました。この災害訓練により、「経験」から学び得るものは大きかったと感じています。

加古川市の災害対応病院の指定を受けている当院では、災害対応訓練を通して、地域の役割を果たせる為の体制を準備していきたいと思っています。



東播磨小児在宅医療連携協議会主催

～在宅医療的ケア児(者)への災害対応～

去る11月24日(土) 15:00～18:00に当院きらりホールにおいて「東播磨小児在宅医療連携協議会主催 ～在宅医療的ケア児(者)への災害対応～」を開催しました。

参加者は、開業医の先生方はじめ、訪問看護師、行政職員の方など、約80名の参加がありました。

第1部では、それぞれの立場からの災害対策における現状について、各担当者からの講演があり、加古川市における現状の把握と医療・福祉・行政がこれから取り組むべき課題を検討するよい機会となりました。

第2部では、兵庫県立リハビリテーション中央病院 子どもの睡眠と発達医療センター 副センター長 小児科部長 木村 重美 先生より「災害時の人工呼吸器装着児のための地域におけるネットワーク作り」についての特別講演が開催されました。木村先生の講演では、熊本の震災の実体験をもとに地域におけるネットワーク作りの重要性を学ぶことができました。この学びをもとに、今後の災害対策につなげていきたいと思っています。



患者支援センター地域連携室

予約専用 TEL.079-451-8651 / FAX.079-451-8653

その他 TEL.079-451-8652 / FAX.079-451-8654

http://www.kakohp.jp/medical_person/



きらり

vol.16

2019年1月

加古川中央市民病院 地域連携情報誌



加古川市民病院機構 理念

いのちの誕生から生涯にわたって
地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます

巻頭言

NSTに代表される
「チーム力」の大切さ 2
診療ドクター紹介 3
連携医紹介 6-7
連携室ニュース 8

特集

4-5

**NST(栄養サポートチーム) による
チーム医療**

巻頭言

NSTに代表される 「チーム力」の大切さ

加古川中央市民病院 副院長
(兼)臨床研究・治験センター長
(兼)診療部長
(兼)内科 主任科部長
(兼)医療安全管理部長
(兼)医療安全推進室長

てらお しゅういち
寺尾 秀一

「先生、この患者さんすぐ経管栄養始めてください。」ICUに入院されたばかりの患者さんでもすぐに主治医に伝えます。「最近むせが多いみたいです。嚥下訓練食に変更しませんか。」「抗がん剤で食欲がないみたいでメニューに重圧感があるようです。少し減らしましょう。」「ケモが終わってから食欲が戻って物足りないようですよ、メニューを増やしましょう。」患者さんの状態に合わせてきめ細かく調整します。「食べる量が減っているのはこの薬のせいかも？」NSTの薬剤師がすぐ薬剤情報を調べます。「歩行訓練中に、食事がはいらないと言っておられました。」やはりチームのリハビリスタッフからの情報がはいります。「家に帰ったあとと同じ食事がとれるかな。確かご家族も入院中だったよね。」退院後の食事の方策を皆で考えます。

急性期で医師も看護師も治療で手一杯な時に、NSTが最も適した栄養方法を提案し治療を支えます。術後や抗がん剤治療の場面では、NSTがきめ細かく食事を調整します。ご高齢の方では嚥下や咀嚼の問題へ対応するだけでなく、御本人の意向を尊重しサポートすることも必要です。さらに退院後の生活のことも入院当初から考えなくてはなりません。このように栄養の問題だけでも課題は多岐にわたっています。これらのことに迅速に対処できる、そんなNST活動を支えているのは、「チーム力」だと思っています。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種で構成されたチームが、個々の気づきを生かしているからです。本号ではNSTのチーム医療をとりあげました。

「チーム力」は、NSTだけでなく院内のすべての診療活動の要だと思います。私たちは、治療のみならず患者さんの個々のニーズを大切に、生活全般の質の維持・向上を目指す医療を目指したいと考えています。そのためには、構成員であるすべての職種が一丸となって個々の専門スキルを発揮できることが大切です。それを支えるのが、お互いの仕事を信頼し尊重し合い同じ目標に向かって行動できる、「チーム力」だと考えます。

診療ドクター紹介

詳しくはホームページをご覧ください

加古川中央市民病院 皮膚科

検索



皮膚科

皮膚科
主任科部長

や
ま
だ
よ
う
ぞう
山田陽三

専門
分野

皮膚科全般



皮膚疾患といいますと、かぶれ、アトピー、蕁麻疹、水虫、帯状疱疹、とびひ、蜂窩織炎などをすぐに連想されるかと思いますが、意外と皮膚科の疾患は幅広く、紅斑症、水疱症、薬疹、膠原病、血管炎、乾癬、掌蹠膿疱症、円形脱毛症、皮膚良性・悪性腫瘍（ただし当科では手術できない良性・悪性腫瘍もあります）など多岐にわたります。わかりやすい言葉での説明を心がけ診療していきたいと思いますので、今後ともご紹介のほどよろしくお願いします。

皮膚科
医師

か
わ
か
み
ゆ
か
り
川上由香里

専門
分野

皮膚科



皮疹には主に炎症性皮疹（赤い皮疹）と腫瘍性皮疹があり、急性の炎症性皮疹は早く治るように、慢性の炎症性皮疹は患者さんが日常生活に困らない程度まで何とか症状を抑えられるように、また、なるべく患者さんの生活や希望に合わせた方法で皮膚の状態を維持できるように診療にあたることを心がけております。腫瘍性皮疹に関しては良性、悪性の判断をつけ適切な対応ができるように心がけております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

皮膚科
医師

い
い
だ
ゆ
り
か
飯田裕里佳

専門
分野

皮膚科



皮膚疾患の種類は多岐にわたり、無症状の皮膚腫瘍などありますが、「痒くて眠れない」「皮疹があってもいともない」などQOLにつながる訴えをされる患者さんが多いです。皮膚疾患は目に見える分、医療者と患者さんの両者が症状や治療経過を把握しながら、同じ治療目標に向かってすすむことが大事と考えています。そのために、患者さんの希望や背景にあわせながら診療を行うように心がけています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

●主な症例

帯状疱疹・水痘	11	血管炎 (IgA 血管炎等)	3
自己免疫性水疱症 (類天疱瘡、天疱瘡)	9	広汎性円形脱毛症	3
急性膿皮症 (丹毒・蜂巣炎)	9	中毒疹	2
皮膚良性腫瘍	4	皮膚悪性腫瘍 (基底細胞癌、ボーエン病)	1
薬疹、重症薬疹 (スティーブンス・ジョンソン症候群、薬剤性過敏症候群)	3	皮膚潰瘍・褥瘡	1
紅斑症 (多形紅斑、結節性紅斑など)	3	急性じんま疹	1
		その他	3

平成29年4月～平成30年3月



NSTによるチーム医療 (栄養サポートチーム)

栄養サポートチーム（以下NST）は、患者さんの栄養状態を判定し、最もふさわしい栄養管理を指導・提言し、医療の質を高めることにより、早期の回復・退院・社会復帰を図ることを目的として活動しています。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士による4職種で、対象患者さんの栄養サポートを行っております。当院の活動の特徴としては、所定の研修を修了したスタッフが所属する病棟・診療科を中心に構成される7チームに分けて運用をしていることです。チームは、消化器内科、消化器外科、腫瘍・血液内科、心臓血管センター、呼吸器内科、10階病棟、ICU・HCU・その他の計7チームで構成され、各チームにてカンファレンスやラウンドを日々実施しています。全科型のNSTではなく、病棟・診療科単位のNSTにより、より質の高い栄養サポートが出来ていると考えています。栄養はすべての治療の基本であり、すべての患者さんにとって必要なことです。栄養サポートが必要な方がおられましたら、ぜひ当院NSTへご相談ください。



糖尿病・代謝内科 主任科部長
栄養サポートチーム チーム長

楯谷 三四郎



呼吸器内科 主任科部長
西馬 照明



消化器内科 科部長
山城 研三

呼吸器疾患で入院する患者さんは、栄養障害に対するサポートが必要なケースが多いです。COPDなどの呼吸不全では呼吸自体のエネルギー消費の増加と呼吸困難による食事量減少でやせが進んだり、がん治療や病気の進行に伴って食欲が落ちたりします。また重い肺炎や嚥下障害によって食事がうまくとれない人もいます。呼吸器内科ではそのような患者さんを対象に週1回のNSTミーティングを行っています。管理栄養士・薬剤師・専門看護師・医師の多職種のメンバーで毎週集まり、呼吸器内科入院全患者を毎回スクリーニングしています。食事がうまくとれないで調子の悪い患者さんのピックアップだけでなく、メンバー全員に現在の病状と治療方針を共有するようにしています。私たちの活動は食事や栄養補給の内容の調整が主ですが、病気を治すには「食べる」ことが重要だと考えています。少しでも早い回復を願って、縁の下で日々楽しく活動していますのでよろしくお願いします！

「食べる楽しみは生きる楽しみ」をモットーに、NSTの専任看護師として活動しています。高齢の入院患者さんの増加に伴い、加齢に伴う嚥下障害・咀嚼問題への食事対応や食事・栄養に関する意思決定をどのように支えるかという関わりが多くなったと実感しています。

そのため、急性期の治療に合わせた栄養管理と並行しながら、早期から退院後の生活を見据えた関わりが展開できるように取り組んでいます。

当院では、多職種連携によるNSTカンファレンスの他に、NST専任の看護師・管理栄養士によるミールラウンドを昼食時に毎日行っています。ラウンドを通して病棟スタッフやリハビリスタッフと連携を図り、退院後の生活に必要な情報を共有する機会としています。

当院での入院生活は、患者さんにとって通過点に過ぎません。退院後、地域で充実した生活を送っていただけるよう、チーム一丸となって質の高い栄養管理を提供したいと思っています。



摂食・嚥下障害看護認定看護師

窪田 容子



薬剤部

岡崎 彰仁

栄養は生命の根幹であります。この土台がしっかりしていないと、どのような医療行為も十分な成果が出ないと考えています。栄養療法は、原疾患、基礎疾患、治療方針など、背景の異なる患者さんに最適な選択が必要になります。NSTではこれらを踏まえて専門職でディスカッションを行っています。当院の特徴として、薬剤師が病棟に常駐していることが挙げられます。各フロアに1名NST担当薬剤師を配置することで、NST介入患者さんを薬剤管理指導業務でもフォローしています。例えば、経腸栄養が開始された方に、経管投与に不向きな薬剤が処方されていないかをチェックする、嚥下困難であれば、普通錠から口腔内崩壊錠への変更を提案する、といった具合です。チーム医療と病棟業務をリンクさせることで、より質の高い医療を目指しております。

呼吸器内科病棟の病棟業務に携わりながら、NST専門療法士としてNSTカンファレンスに参加しています。

呼吸器内科入院では化学療法を受けられる患者さんも多く、抗がん剤の副作用で悪心・嘔吐や食欲不振をきたすことで食事摂取量が低下し、栄養状態が悪化する事があります。抗がん剤の副作用が予想される患者さんに対し、できるだけ早期にNST介入をして栄養状態の低下を防げるよう努めており、介入の実態調査も行っております。

先日、味覚異常・血清亜鉛濃度低値・食欲不振の患者さんに対してNSTメンバーで亜鉛製剤の処方を提案しました。亜鉛製剤が投与された結果、味覚異常と食欲不振も改善し、患者さんに喜んで頂いたという経験を致しました。

このように患者さんの食べる楽しみを大切にしながら、NSTメンバーをはじめ医師や看護師、管理栄養士など多職種と連携を取り、退院後も見据えた栄養管理に取り組んで参りたいと考えております。



薬剤師

辰巳 真穂



栄養管理室
NST 専任管理栄養士

高山 舞奈

消化器NST専任管理栄養士として活動を行っています。消化器病棟については治療により食事摂取量が低下する患者さんも多く、週に1回のNST回診時のみの訪室ではタイムリーに患者さんに介入することができません。その為、当院消化器病棟においては、病棟担当の管理栄養士とNST専任の管理栄養士の2名体制で患者さんの栄養管理を日々実施しています。また、消化器NSTは消化器医師、薬剤師、看護師、管理栄養士が揃っている事で、チームのディスカッションが進みより質の高い栄養管理へ繋がれると感じています。栄養のみではなく患者さんの気持ちを尊重した関わりや、転院先を考慮した栄養管理を引き続き実施したいと思います。

私は主に呼吸器内科、循環器内科、心臓血管外科のNST専任管理栄養士として活動しています。中でも呼吸器内科NSTでは、呼吸器内科全入院患者さんに対して週1回NSTメンバーによる栄養スクリーニングを実施しています。食事摂取量の低下、摂食・嚥下障害あり、絶食から経口・経腸栄養への移行など、積極的な栄養サポートが必要と判断した患者さんには、早期にNSTが介入するようにしています。肺炎や胸水貯留に伴う呼吸困難感や、抗がん剤治療開始後の嘔気や倦怠感などにより、経口摂取が負担となる患者さんが多く見受けられます。そのため、昼食時にミールラウンドを実施し、実際の食事場面を評価した上で、適切な栄養メニューを提案できるように心がけています。



栄養管理室
NST 専任管理栄養士

中村 恭葉

連携医紹介

当院と連携いただいている医療機関をご紹介します。

坂田整形外科 リハビリテーション

診療科：整形外科／リウマチ科／リハビリテーション科

皆様こんにちは。加古川市平岡町で開業しております、坂田整形外科リハビリテーション 坂田周平と申します。当院は先代から継続して約20年になります。地域に根ざし、患者様の笑顔のきっかけになれるよう、一人一人の患者様に親身になって向き合っていくことを一番大切にしております。できる限り保存的加療を目指しますが、必要な方には適切な治療、手術を紹介できるような日々研鑽しております。特に、手術が必要となった患者様に関しては、加古川中央市民病院とも連携させていただき、大変お世話になっております。今後も、地域の方々のお役に立てるよう、努力して参ります所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒、よろしくお願い申し上げます。



院長：坂田 周平 先生



所在地：加古川市平岡町中野484-1
駐車場台数：35台

TEL.079-430-2780

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:45～12:00 木曜のみ午前 8:45～11:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 16:00～18:30	○	○	○	—	○	—	—

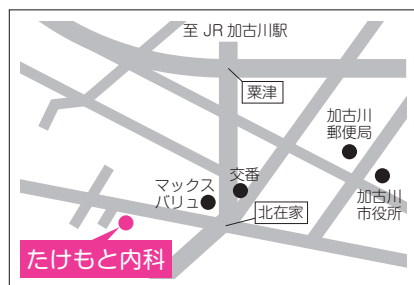
たけもと内科

診療科：内科／糖尿病内科／消化器内科／腎臓内科

2018年9月1日に加古川市北在家に「たけもと内科」を開業しました、竹本利行と申します。開業してから間もないですが、「患者さんの身近なかかりつけ医」として日常の体調・健康について、気軽に受診・相談できる医院になることを目指しています。また「内科総合専門医」として色々な疾患を持つ患者さんを「疾患」からだけでなく「ひとりの患者さん、ひとつの身体」として総合的に診察することを心掛け、一方で「糖尿病専門医」「消化器病専門医」「腎臓病専門医」として身近に専門的な医療を提供できるように努めています。糖尿病診療の中心となる「HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)」については院内機器で短時間に結果を出せるようにしており、食事・運動療法での患者さんの頑張りを即座に治療に活かすことができる体制を整えています。その上で高度・専門的な診療が必要な場合には、加古川中央市民病院の専門医の先生方にお力を借りることで地域の皆様に信頼して頂ける医院になればと考えています。地域の「かかりつけ医」「総合専門医」として、より良い医療を提供できるようスタッフ一同で精進していきますので、よろしくお願い致します。



院長：竹本 利行 先生



所在地：加古川市加古川町北在家787-5
駐車場台数：25台

TEL.079-429-2220

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 16:00～19:00	○	○	—	○	○	—	—

伴内科医院

診療科：内科／循環器内科

伴内科医院の伴 親徳です。平成27年に加古川市民病院を退職後、父を継ぎ兄弟で診療をはじめて早3年半が経ちました。今では内科もようやく地域に周知され、多くの患者様が来院されるようになりました。これも加古川中央市民病院をはじめ地域の医療機関の先生方に病診連携頂いたおかげと感謝しております。また弟とも連携し、地域のお子様から高齢者の方までの医療を担っていければと考えております。今後とも小児科共々よろしくお願い致します。



内科・循環器内科
伴内科医院

院長：伴 親徳 先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	—	○	○	○	—
午後 15:30～18:30	○	○	—	○	○	—	—

【各種検査】月・金／13:30～15:00
(運動負荷心電図検査、頸部エコー検査、心エコー検査など)

TEL.079-434-6711

伴小児科クリニック

診療科：小児科

伴小児科クリニックの伴 紘文です。私は平成25年4月から今の場所で診療しております。加古川中央市民病院の皆様をはじめ、多くの医療機関の方々に支えて頂き大変心強いです。兄が内科医、私は小児科医として、自分たちが育ったこの地域に少しでも貢献できたらと考えております。微力ではございますが今後とも何卒宜しくお願い致します。



伴小児科クリニック

院長：伴 紘文 先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 16:00～18:30	○	○	○	—	○	—	—

【予防接種・乳幼児健診】月・火・水・金／15:15～16:00(要予約)

TEL.079-432-2558

所在地：
加古川市米田町平津446番地の10
駐車場台数：16台



『連携医紹介』 ページの掲載について

こちらでは日頃から地域医療連携を図り、ご協力いただいている医療機関の先生方を順次ご紹介しております。掲載希望の先生方は、ぜひ加古川中央市民病院 地域連携室までご一報ください。お待ちしております。

